

## 2022 年度第 2 四半期 決算説明会（2022 年 11月29日） 質疑要旨

Q1. 注目企業として掲載されていた蘇州神商金属について、レベラーシャーの新規設備投資後の取扱数量を教えてください。またどの分野をメインにターゲットとしているのか教えてください。

A1. 2022 年度としては、年間約 3 万 8 千トを見込んでおります。新規増設の幅広部材を扱うレベラーシャー導入後は、2023 年度 4 万 2 千ト、その後年次 1 千トずつ取扱量を増やしていき、3~4 年後には 4 万 5 千ト強を目指しております。  
分野としては、EV を含む自動車用部材がメインターゲットになりますが、今後は EV に使用される電池関連部材の取扱いを積極的に進めていきたいと考えております。

Q2. 業績予想について、中計最終年度の目標値をすでに達成しているような状況だが、今後、中期経営計画の修正はあるのか教えてください。

A1. 中期経営計画の目標値を一部達成している状況ではありますが、その要因として為替を当初予算時では 110 円で見えていたものが、円安が進み、上期平均でも 130 円に近いレートとなったことによる増益や、鋼材価格の上昇による増益などが、今年度の利益に大きく寄与しております。そういった一過性の増益要因が剥落した場合の「本当の実力値」という意味では道半ばと見ている為、中期経営計画で定めた KPI を達成することを目標としており、現時点では中期経営計画の修正は考えておりません。

参考：[神鋼商事 中期経営計画 2023](#)（2021 年 - 2023 年 3 カ年中期経営計画）

Q3. 配当について、為替差益や鋼材価格の上昇など一過性の利益が減少し今後減益となった場合、掲げている配当性向に従い減配となるのか、それとも安定配当を維持するのか教えてください。また株主還元目標である 30%の配当性向は変更無いか教えてください。

A3. この 3 カ年の中期経営計画の配当性向目標は 30%を掲げており、その方針を堅持することを考えております。

次の中期経営計画においては、株主還元を配当性向のみでよいのかなど、様々な考えがあると思いますので、改めて全社的に検討を進めていきたいと考えております。

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じた、いかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。